

私の住んでいる田浦町は甘夏で有名な町で、横居木部落は山の手で三方が山に包まれた閑静な山里です。大半が農業を主とした林業経営で、私の家でも杉、松、檜など三〇〇畝を経営していますが、私は高校を出たばかりの頃までは林業については全く無関心でした。

昨年の秋、私はふとした機会があって芦北林業教室に参加することにになり、二〇名の若い仲間たちと一緒に林業経営の勉強をはじめました。女性で林業をやることは力仕事に伴いますから大変だと思っていました。しかし、みんなと組んで学習をしたり実習作業などに首をつつ込んでやっていると、これからの林業をやるには経営的な知識や林業技術の新しい導入についてもっともっと積極的に立ち向かわなければ駄目だということに気がつきました。そしてそれは、私の林業経営への



開眼のようなものだったのかも知れません。林業教室では、県の指導員の方が親切に、具体的な色々と知識を教えてくださいました。特に興味があったのは実習の過程です。わが家の林業経営の計画をたてるには、まず自分の山の状態を調べるから始まるわけですが、実習科目の一つとして、父と林業改良指導員の方と一緒に山を歩き回りながら、測量したりして地図に書き込んだりしたものです。このことに関連して私は、林種の種類や林積の概況、売買流水の評価などにもどうにか関心が傾いてきたようでした。今までは、わが家の生産状況や現金などについては全く無知な

ただばかりでなく、いかにして小遣いをせしめるか位の気持ちでしかなかったのが今にして思えば驚かしくりまして、わが家の経営実態に辛直に目を向け長い目でみた経営計画を、それこそ地道にがらつきりを取り組んでみたいと思っています。

幸い、私は芦北林業教室の仲間たちとともにこれから研究テーマを選んで自由に研修する機会もありますので、新しい林業技術をもっとも身に付けながら合理的な林業経営を体験して行きたいと思っています。

(芦北郡田浦町)

### 明日の林業経営に開眼

— 芦北林業教室に学んで —

福島チエノ (十九才)

普及員が当たっている。また、一昨年から放送利用農業集団の指定をして濃密的に指導を加えるような仕組みになっており、昨年度までの指定グループは四〇〇集団になっている。

### 農業生産技術の研修

農村青少年の自主的な集団活動を促進するためその集団の中堅の青年に対し、農業の成長部門に関する技術について行なう研修だが、県では、稲作、果樹、畜

### 農村女子青年の生活講座

昭和四十一年度から設置されたもので農村の女子青年を対象に、近代的農業生活を確立するために必要とする生活に関する基本的知識技術について行なう研修である。四十一年度は、託麻村、蘇陽町水上村の三町村で開設された。

### 農村青少年先進地農家での留学研修

昭和三十七年度から設置されたもので、昭和三十七年度から設置されたもので農村の女子青年を対象に、近代的農業生活を確立するために必要とする生活に関する基本的知識技術について行なう研修である。四十一年度は、託麻村、蘇陽町水上村の三町村で開設された。

### 農業経営技術の研修

農業構造改善の推進者となりうる指導的青少年に対し、企業の農業のない手としての資質を養うため、高度の経営技術について研修を行なっている。

### 農村教育青年会議

農村青少年の活動についての話し合いの場をつくり、農業および農家生活に関する技術の交換、交流を行なわせることによって、農業改良または農家生活改善に関する自主的な研究集団の育成をはかるための事業。県下各地区および県の段階で冬季に青年会議、夏期に技術交換大会と開催し、それぞれの代表者を全国大会に派遣して、農村青年のなまづくりを実施している。

### 自営者冬季学校

自立経営農家の育成助長をはかる施策の一環として、農家の若い経営主の夫婦に対して、近代農家農業経営および農家生活に必要な知識技術について、体系的に研修を行なうため農閑期に開催する事業である。若い農家の夫婦がいっしょに勉強し研究することに特徴があり、普及所単位に開設されている。指導には、専門技術員、普及員、町村の職員があた

正しい理解と愛情で育つ

親子協定

### ある青年の手記

高校時代に近代的教育を受けた私は合理的な農業経営を夢みて、実家で農業を始めました。しかし当時、私の家は米麦に和牛を組み合わせた経営で、労働量の割には収入は少なく、しかも現金は年に二回しか入らない有様で、理想の農業経営とは非常にかげはなれた現実、夢は無惨に打ち砕かれました。

そこで、父と相談し、そさを取入れるところ、土地柄にあったせいか、作柄もよく、相対な収入になりました。しかし、そさは作柄が不安定なうえに価格の変動が激しいので高校時代密かに考えていた乳牛を導入することを父に相談したところが、剣もほろろに断られました。しかし私は自分の人生は酪農にかける強い決意を当時固めておりましたので父を説得しようと考えました。

そこでまず現在の経営がいかに生産性が低く報われることが少ないものであるかを解ってもらうため経営診断をやる一方、長期の営農計画を作り、この地域では高位安定の経営は酪農以外にないこと

を父の機嫌の良い頃合いをみはからって強調しました。それでも頑固な父は乳牛の導入を認めてくれず途方にくれましたが、良く考えてみると乳牛の導入には多額の資金を要するよう技術的に経験のない私ですから、父の不安定を感じることは無理もないことを知りました。

父親の説得に成功  
そこで、私は乳牛の導入に係わる細かい計画をたてて、酪農の一切の労働は私がやることなどを申入れたところ、さすがの頑固ものの父も私の熱意に絆されたか、ようやく賛成してくれました。その時の私の気持は筆舌に尽し難いものがありますが、とにかくうれしくてうれしくて農業をやったとしまじみと感じました。

最初に導入した牛が幸いにして資質に恵まれておりましたので、その後順調に頭数も増えてゆきました。私はこの手で酪農の経営や技術の勉強を積むことができました。頭数が五頭になったとき、常日頃考えていた月給制を父に提案したところが、頑固な父が意外にもあっさり

と認めてくれました。当時の事情を振り返

産、養蚕、そさなど部門について、一部門七日間で全員宿泊し、講師には、それぞれの専門技術員があたり、高度の専門技術の研修を行なっている。

### 農業機械の研修

農業構造改善事業の実施地域または計画地区の青年を対象とし、今後その地域に導入される大型農業機械の操縦技術について行なう研修であるが、年間二回、下益城郡城南町にある経営伝習農場に併設されている農業機械センターで実施する、大型農業機械のめざましい普及にともない、受講希望者の数も激増している。

### 農村女子青年の生活講座

昭和四十一年度から設置されたもので農村の女子青年を対象に、近代的農業生活を確立するために必要とする生活に関する基本的知識技術について行なう研修である。四十一年度は、託麻村、蘇陽町水上村の三町村で開設された。

### 農村青少年先進地農家での留学研修

昭和三十七年度から設置されたもので、昭和三十七年度から設置されたもので農村の女子青年を対象に、近代的農業生活を確立するために必要とする生活に関する基本的知識技術について行なう研修である。四十一年度は、託麻村、蘇陽町水上村の三町村で開設された。

### 農業経営技術の研修

農業構造改善の推進者となりうる指導的青少年に対し、企業の農業のない手としての資質を養うため、高度の経営技術について研修を行なっている。

### 農村教育青年会議

農村青少年の活動についての話し合いの場をつくり、農業および農家生活に関する技術の交換、交流を行なわせることによって、農業改良または農家生活改善に関する自主的な研究集団の育成をはかるための事業。県下各地区および県の段階で冬季に青年会議、夏期に技術交換大会と開催し、それぞれの代表者を全国大会に派遣して、農村青年のなまづくりを実施している。

### 自営者冬季学校

自立経営農家の育成助長をはかる施策の一環として、農家の若い経営主の夫婦に対して、近代農家農業経営および農家生活に必要な知識技術について、体系的に研修を行なうため農閑期に開催する事業である。若い農家の夫婦がいっしょに勉強し研究することに特徴があり、普及所単位に開設されている。指導には、専門技術員、普及員、町村の職員があ

### 親子協定農業の狙い

この農家の場合は後継者の要求から親子協定ができあがった例であるが、逆に親が後継者を計画的に育成しようとして親子協定を導入し成功した例も多い。この青年が今日の状態に達するまで凝ら

指導的な農村青少年を先進農業地帯のすぐれた農家、農業生産法人などに派遣し、実地に農業技術または生活技術を体得させ、帰郷後は、その地域における農業改良および生活改善の推進者とするために行なう研修で、県からは、毎年三〇人程度を先進各県に派遣している。(留学期間は三ヶ月/六ヶ月位が普通である。)

### 農村教育青年会議

農村青少年の活動についての話し合いの場をつくり、農業および農家生活に関する技術の交換、交流を行なわせることによって、農業改良または農家生活改善に関する自主的な研究集団の育成をはかるための事業。県下各地区および県の段階で冬季に青年会議、夏期に技術交換大会と開催し、それぞれの代表者を全国大会に派遣して、農村青年のなまづくりを実施している。

### 自営者冬季学校

自立経営農家の育成助長をはかる施策の一環として、農家の若い経営主の夫婦に対して、近代農家農業経営および農家生活に必要な知識技術について、体系的に研修を行なうため農閑期に開催する事業である。若い農家の夫婦がいっしょに勉強し研究することに特徴があり、普及所単位に開設されている。指導には、専門技術員、普及員、町村の職員があ

### 仲間づくりの推進

二十才台の未婚の農村青少年を主たる対象として、その自主的な活動により、相互の共同精神を培い、幅広い教養を高めさせるため、農業改良普及段階で研修および交換訪問等を行なっているこの事業は本年から農村青年研修館及び農村センター等を利用して実施する。

### 実施紹介

「農業をやる仲間同志として知り合い、ライバル意識もできて、仕事にも励みが出てきたね」と鹿本町青年建設班の修了生たちは、その効果を口をそろえて語る。

### 鹿本町青年建設班の活動記録

鹿本町に青年建設班が着したのが昭和三十六年。当時、農村では二、三男対策に苦心していた時代で青年の活動も低調だった。そこで、鹿本町では三十五年度に新農村建設特別助成事業として青年研修所を建設。地域の青年が一定の期間家を離れて独立した共同生活を営み、農業経営や農村社会のあり方、あるいは生産技術について研究し、実習を積んで自信を深めるための場を提供した。

### 若い仲間意識

既に、三十六年の第一期生以来、今年の七期生まで、男子八三人、女子六一人あわせて一四四人の修了生を出している。(次頁へ)